

記者発表資料

国道17号「新三国トンネル(仮称)」の 工事進捗状況について

新三国トンネル（仮称）は、平成25年9月に起工式を行い、これまでにトンネル坑口付近の改良工事及び橋梁工事のための進入路の整備を実施してきたところです。

現在、新潟県側ではトンネル坑口付近の擁壁工事、群馬県側では橋梁下部工事を進めています。

今後、新三国トンネル（仮称）本体工事の準備が整い次第、トンネル掘削工事に着手して参ります。

今後とも一日も早い開通に向けて最大限努力して参りますので、ご理解とご協力をお願い致します。

記者発表クラブ

竹芝記者クラブ	神奈川建設記者会	刀水クラブ・テレビ記者会
高崎記者クラブ	新潟県政記者クラブ	魚沼記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 高崎河川国道事務所
住所：群馬県高崎市栄町6-41 電話：027-345-6000（代）

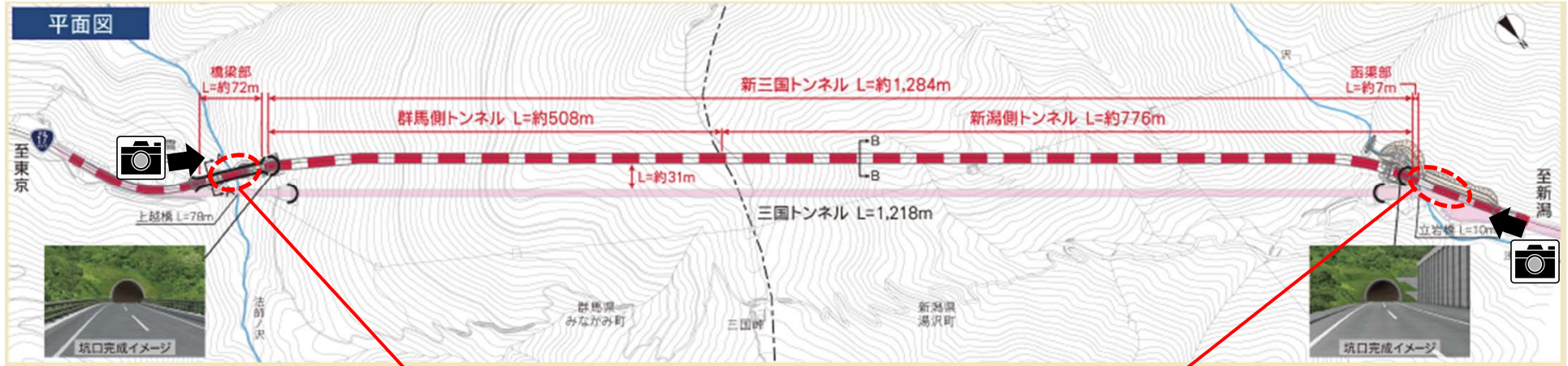
副 所 長 伏見 利行（ふし み としゆき）内線：204

工務第二課長 中嶋 政幸（なかじま まさゆき）内線：411

高崎河川国道事務所ホームページ

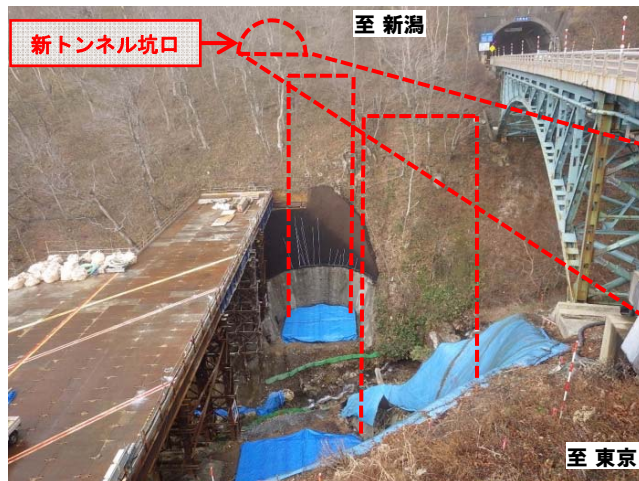
高崎河川国道

国道17号 新三国トンネル(仮称) 工事進捗状況



【群馬県側】

新トンネル坑口に取り付く橋梁の工事推進



【平成27年12月（降雪前）撮影】
沼田方面から群馬側坑口部を望む

※写真は橋梁の基礎まで完成した状況

【新潟県側】

新トンネル坑口付近までの雪崩（なだれ）
防止擁壁の工事を推進



【平成27年12月（降雪前）撮影】
湯沢方面から新潟側坑口部を望む

※写真右側が雪崩防止擁壁

三国トンネルの役割と現況

【新三国トンネル建設の目的】

国道17号は、首都圏と北陸地域を結ぶ主要幹線道路であり、その中で三国トンネルは群馬・新潟の県境に位置する道路施設です。

また、三国トンネルは、群馬県と新潟県間において危険物積載車両が通行できる唯一のトンネルであり、さらには関越自動車道の通行規制時における代替路として機能するなどの役割を担っています。

三国トンネルは、昭和34年の完成後50年以上が経過し、過去の補修による覆工の増厚で内空断面が縮小し、大型車同士のすれ違い時に覆工を擦るなどの事態が生じており、交通の安全性向上を図るため、新たに新三国トンネルの建設を進めています。

○三国トンネルの役割は、主に以下の重要な役割を担っています。



関越自動車道の通行規制時における唯一の代替路線

- ・ 関越トンネル等が通行規制を受ける際は、三国トンネルが唯一の代替経路となります。

危険物積載車両が走行できる唯一の路線

- ・ タンクローリーなど危険物積載車両は関越トンネル(延長約11km)を通行することができません。そのため、国道17号三国峠の区間は、関東と新潟を往来する危険物積載車両の唯一の通行道路になります。

地域住民の生活道路

- ・ 周辺地域の住民にとって通勤など生活道路として利用されています。

トンネル近くの観光施設へのアクセス道路

- ・ 上信越高原国立公園内に位置する三国峠周辺には多くの温泉、スキー場等が分布しており、観光資源を訪れるためのアクセス道路としての役割を有しています。

○三国トンネルの現況

- ・ 現在の三国トンネルは、昭和34年の完成以来、過去の補修による覆工の増厚で内空断面が縮小し、大型車同士のすれ違いが困難になってきています。

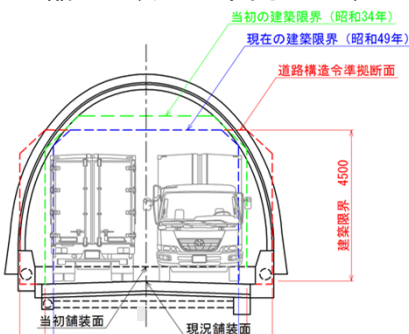
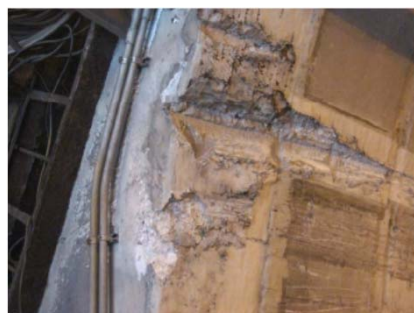


図-覆工の増厚による内空断面の縮小



大型車による覆工の擦り状況



センターラインを大きくはみ出して走行する大型車